

令和3年度 調布市立石原小学校 学校経営計画（学校長 江原幸一）

学校の教育目標	
(1) 根気よく学ぶ子（今年度の重点）・・・主体的に学ぶ意欲をもち、自らを高めようとする。（問題解決力、判断力） (2) 明るく元気な子・・・心身を鍛え、前向きに生活する。（体力、学習への意欲） (3) なかよく助け合う子・・・自分と他者の生命や個性を尊重し、人間関係を築く。（コミュニケーション力）	
目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像	
「子どもたち一人一人を大切にできる学校」（子どもたちが安心して過ごせる、温かみのある学校）	
ビジョンの設定理由 (本校の現状と課題)	学校の主人公は、子どもたちである。本校に通う一人一人の子どもたちを教職員全員が大切に思い慈しみ、様々な境遇にある子どもたちにとって、安心感があり居場所のある学校を目指す。
中期的な経営目標	
① 教職員一人一人の人権感覚を豊かにするとともに全教育活動を通して人権教育を徹底し、児童の自立心と思いやりの心をはぐくむことにより、いじめや不登校等の問題行動の未然防止・早期発見に努める。 ② 学習指導要領の趣旨を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」を柱に、学習に興味や関心をもたせ、人や事象との対話・対話的活動を通して自らの考えを広げ深めたり、新たな問題を見出して解決したりする授業改善を推進していく。 ③ 通級指導教室の拠点校として、校内通級教室の環境を整備・活用し、一人一人の教育的ニーズに応じた指導内容・方法の充実を図る。 ④ 全教職員が組織の一員として協働し相互研鑽することを目指すとともに、学校運営に参画する意識をもち組織体として教育活動を行う。	

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>		
1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)
(1) 取組目標（具体的方策）	(1) 取組目標（具体的方策）	(1) 取組目標（具体的方策）
① いじめアンケートの実施（年5回）	① 学習アンケートの実施（年3回）	② 休み時間の外遊びの励行
③ あいさつの励行と宣言後零の定着	② 家庭学習の定着	② 食物アレルギーへの対応を確実に行うとともに、給食の残菜（特に野菜類）を減らす。
(2) 成果目標（数値目標）	(2) 成果目標（数値目標）	(2) 成果目標（数値目標）
① 発見から解決まで1ヶ月以内を目指す。その後も全教職員、保護者、地域関係者等の様々な視点により継続して観察し、再発を許さない取り組みを行う。	① 学期1回のアンケート調査により、学習が楽しいと感じる児童が80%以上を目指す。	① 全児童の95%以上が中休み及び昼休みにおいて、外遊びを行うことを目指す。（各学級の実態をもとに把握する。）
② 自らすすんであいさつする児童が90%以上を目指す。	③ 各家庭、調布学園等と連携を密にし、定着率95%以上を目指す。（各学級の実態をもとに把握する。）	② 食物アレルギーに関するヒヤリハット年間0件とし、毎日の残菜の量が90リットル以下となることを目指す。特に和食メニューの工夫を行う。
学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>		
4 特別支援教育	5 キャリア教育	6 新型ウィルス対策
(1) 取組目標（具体的方策）	(1) 取組目標（具体的方策）	(1) 取組目標（具体的方策）
① 通級指導並びに個別指導の充実。	① その道のプロフェッショナルを招聘した授業（年5回）	① マスク着用、手洗いの励行、3密の回避による教育活動
② 都立特別支援学校との交流活動（年2回）	② 小中連携による交流活動・授業（年2回）	② 風評や差別の防止
(2) 成果目標（数値目標）	(2) 成果目標（数値目標）	(2) 成果目標（数値目標）
① 拠点校および巡回校ともに、適切な退級率100%を目指す。また、日本語指導教員による個別指導を週22時間実施する。	① 活動を終えての感想文による肯定的な内容のもの95%以上、自らのキャリア展望に触れたもの20%以上を目指す。（音楽やオリパラなど）	① 新型ウィルスの感染者0人を目指す。
② ノーマライゼーションの意識高揚を目指し、障害に対する差別や偏見のない、差別感のない温かな内容の感想文、100%を目指す。	② 中学校生活を楽しみにする感想を抱く児童の数が90%以上を目指す。	② 全校朝会及び学級指導、学年指導等により、各学期1回以上、風評被害や感染者・医療従事者等への差別防止に向けた指導を行う。

人材育成・組織運営
【若手教員育成】 (1) OJTの充実 ①若手（採用4年目まで）と主任クラスをペアーにして組織をつくり、若手の悩みに対してすぐに手を差し伸べられるようにする。 ②定期的に校内ミニ研修(15:30-15:45)を行い、学習指導・生活指導・校務処理などの問題解決や相互研鑽を行う。 ③管理職による授業観察を毎日行い、日頃の様子を的確に把握・指導するとともに自己申告面談と授業観察の機会にも指導・助言を行う。 (2) OFF-JTの充実 ①メンタル面で不調となることがないよう、仕事とプライベートの切り替えを明確にさせるとともに、いつでも相談できる雰囲気大切に。 ②人間性を豊かにするために、実体験を伴う活動や本物・その道のプロ等に触れるなど、自らの感性を刺激し、視野を広げることを推奨する。 【円滑な組織運営】 (1) PDCAサイクルをもとに、改善すべき点は年度末を待たずに順次改善を図るようにする。 (2) 担当職務を毎年入れ替えることなく、2～3年間は同じ職務を分担させ内容の充実と引継ぎ等が円滑に進むよう配慮する。